

Gifukohan Times

No.0008

岐阜県教販通信

2021年1月発行

「目的」と「手段」

当社は岐阜県の全小中高校に紙の教科書を供給し続けて100年以上の会社です。この度当社は岐阜県の全小中学校及び特別支援学校に「SCHOOL e-LIBRARY」41ライセンスを進呈することになりました。当社はGIGAスクール構想により全生徒がタブレットを持つことで新しい読書体験の場を作る事と、コロナ禍で本屋や図書館が休業していてもいつでも自由に本を読むことができる場を作るという目的で進呈致します。岐阜県の子どもたちに新しい読書の機会を与えることで深い学びにつながる一助となれば幸いです。尚、商品の詳細情報は当社HP (<http://www.gifukenkyohan.co.jp>) のバナーでご確認できます。又、岐阜県教販通信のバックナンバーもHPに記載しております。



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省NO.1の論客でなし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。東京都と近隣3県に緊急事態宣言が発令されたと思ったら、次の週には岐阜県を含む7府県が加えられ、11の都府県が緊急事態とされている。

せめてもの救いは、萩生田光一文部科学大臣が昨年のような全国一斉の学校休業要請は出さないと迅速に発表してくれたことである。あの時の混乱は、ほとんどの学校関係者や保護者が思い出したくもないだろう。それがひとまず回避されただけでも、まずはひと息というところではないか。

しかし、なかなかコロナ対策の効果があがらない状況には、国民全体が不安を感じ始めている。なにぶん相手が未知の病原体だけに、いろいろ試行錯誤が続くのは仕方がない。だが、わたしたちはこの事態にどう立ち向かうかについて、もう一度落ち着いて考えてみるべき時期にあるのではないだろうか。

文部科学省に勤務している頃から、わたしは物事を整理するときに<目的>と<手段>を明確にしなければならないと常に心掛けてきた。さまざまな問題に直面するとき、その設定を誤ると対処もうまくいかない。部下職員や後輩にも、口を酸っぱくして指導してきたことだ。

今回のコロナ対策で言えば、<目的>は国民の命と健康を守ること、それしかない。ところが、われわれは感染防止と経済を両立させなければならないかのように思い込んでいたのではないだろうか。その結果、緊急事態宣言のような感染防止策と、経済を回すための活性策の双方を認めてきた。

そうではないように思えてきた。経済は、たしかに重要だ。どうでもいいなどと軽視してはいけぬ。ただそれは、あくまでわたしたちの命と健康を支えてくれる<手段>なのではないか。だとすれば、まずは最大の<目的>である感染防止のために全力を注ぐことこそ先決である。その際の最適の<手段>は、経済を止めてでも感染を抑えることだ。

何度もロックダウンを繰り返している欧米諸国だが、経済的打撃は甚大としても、社会が崩壊するところまでは、まだまだ遠い。わたしたちの国も、それらの国々以上の底力を秘めているはずである。専門家や行政関係者にも、なんとか発想の転換についても意識してもらえないものだろうかと願っている。

この<目的>と<手段>の問題は、現在の学校教育の場でも肝要だ。教育の<目的>は、子どもたちに、健やかに育って基本的知識や学ぶ力を身につけてもらい、自ら考える人間になって社会を支える大人になってもらうことである。

昨今、現場には多種多様な新しい教育思想や教育方法、教育機器が急速に注ぎ込まれている。それらを活用するのはいいことだが、あくまで教育の<手段>であるという点は、決して忘れてほしくない。